

～郷土史つづり～

その67「カシワ林の調査(後編)」

文責
郷土史マスター
川内つづり



カシワはリス、野ネズミ、カケスなど捕食動物によって埋められたどんぐりから成長する実生(みしょう)と切り株から新しい芽が芽吹く萌芽(ほうが)の両方で再生されます。マツ、スギ、ヒノキは萌芽をしないそうです。ナラの木の萌芽は、小さな枝がブッシュ状に出るのに対して、カシワの萌芽はすぐに太い幹になる特性があり、実生より成長が早いということです。例えば、木の年輪を比較した場合、その幅の違いで実生か萌芽かを知ることが出来るのです。また、幼木は成長するためにたくさんの日光を必要とするので、林全体を観察すると一本の大きな木の周囲には小さな木があることが分かります。町でカシワの植林した記録はなく、カシワの強い生命力でここまで復活を遂げたのです。感動の時間はあっという間に過ぎてしまいました。H 博士にはその後もメールなどでご教授頂き、大変お世話になりました。

博士の話で興味深かったのは、早来のカシワは、10メートル以上の高さがありますが、海岸のカシワは、約3メートルから5メートルと低いとの事でした。数日後、石狩から厚田方面のカシワの海岸林視察に行きました。海岸から吹き付ける強風に前のめりに耐えている格好のカシワ林がありました。海からの塩を葉に付けて新芽を守ると同時に、天然の防風林として町の暮らしに役立ってきたであろうカシワのけなげな姿に感動しました。

カシワは、春すぐに発芽しません。新芽を乾燥、霜害、強風から守り、雪解けから1か月たった頃に発芽するので、懸命に命を繋いでいるカシワの強さと優しさにすっかり魅了されてしまいました。その後土の会では、郷土史ミニ本「カシワ伝説」を制作配布し、カシワの皮のタンニンで染めた布でキーホルダーを作ったりと、カシワ林を見守る活動をしています。町の歴史遺産とも言えるカシワ林の力強さを、みなさんも見て、感じてくださいね。

公民館図書室

新着図書のご案内



新しい本がたくさん入りました！早来・追分どちらの公民館の本でも借りることができます。ぜひ図書室へお越しください。リクエストもお待ちしています。

早来公民館

〈一般書〉もしもに備える！おうち備蓄と防災のアイデア帖(島本 美由紀)／表目と裏目だけで編むニット(ベルンド・ケストラー)／ペルソナ 脳に潜む闇(中野 信子)／今度生まれたら(内館 牧子)／ブラックシヨーマンと名もなき町の殺人(東野 圭吾)

〈児童書〉渋沢栄一 明治時代に日本経済の基礎をつくった男(学習漫画)／偉人もみんな悩んでいた(真山 知幸)／思い出をレスキューせよ！“記憶をつなぐ”被災地の紙本・書籍保存修復士(堀米 薫)／はたらくるまたちのかいたいこうじ(シェリー・ダスキー・リンカー)／かいけつゾロリきょうふのエイリアン(原 ゆたか)

追分公民館

〈一般書〉日本習合論(内田 樹)／放射性廃棄物の憂鬱(楠戸 伊緒里)／内なる町から来た話(ジョン・タン)／降るがいい(佐々木 謙)／スキップするように生きていきたい(こやま こいこ)

〈児童書〉現地取材！世界の暮らし 2 韓国(常見 藤代)／うちにカブトガニがやってきた！(石井 里津子)／ふくろう模様の皿(アラン・ガーナー)／子どもの本の世界を変えたニューバリーの物語(ミシェル・マーケル)／雪の女王 新装版(アンデルセン)

今月の展示テーマ

『あの日から』

2011年3月11日から10年。あのとき、どこで何をしていましたか？あの日、生まれた赤ちゃんは小学校4年生です。その間に、安平町は「北海道胆振東部地震」を体験しました。震災と原発事故被害に見舞われた地域は、復興されたとはいえない現状です。新型コロナウイルス感染症もですが、災害はどこで起きてもおかしくありません。用心と備えを心掛け、記憶を語り継いでいかななくてはなりません。

図書室開室日 火～日曜日 9時～17時

※他にもたくさん本を揃えています。ぜひご利用ください。